

令和元年度決算を審議

10月2日から始まつた令和元年度の決算特別委員会が16日に終了し、賛成多数で委員会審議は終了しました。私も款別毎に6日間にわたり質疑に立ちました。決算委員会では事業が当初予算に比べてどのくらい執行されたのかへ執業の評価はどうだつたのか、それを行率へ執行した事業についても質疑しました。主な質問を列挙します。



↑大井・西大井に縁のある偉人は誰でしょうか？答えは右下にあります。

①品川歴史館の使用料に関連してリニューアルに向けた質問。大森貝塚の展示に力を入れている展示館ですが、品川区は幕末から明治時代初期に活躍した政治家や武士とも縁のある地域です。展示の途中あ政治力した偉人たちの展示を求める質問でした。コロナ禍の中でも閉鎖されたり毎月7千円支払われています。区内にはカナディアンスクールもある中で三国だけを優遇する補助金の支給が行われています。

②たばこ税に関連してコロナ禍の中で閉鎖されれた喫煙所を整備して、受動喫煙の影響を排して早く設置してもらうよう促しました。

③町会自治会館建設等補助について質問しました。こちらの事業は確かに当初予算に比べたら18.5%と格段に執行率の低い事業ですが、地域社会の中枢ともいえる会館建設の補助を減らすべきではないことを意見しました。沿った答弁をいたしました。生徒との答弁は見直すべき事が、その答弁で支えたが、たるもの

②国際交流費用に関連して質問しました。コロナ禍での国際交流について質問しました。品川区は今、アメリカのポートランド、スイスのユネーブやニュージーランドのオークランドと姉妹都市交流を結んでいます。コロナ禍の中で人的交流ができなくなりましたが、リモートを使った交流を提案し、一方ですでに台湾との交渉を区内施設で開催した、杉並区の事例を出して、新たなアジア諸国との国際交流に向けた提案をいたしました。

①生活保護者自立支援事業について質問しました。京都では貧困の連鎖を断つるために保護者世帯の児童への学習塾への支援を行っています。しかし実際の普及率は半数以下であります。京都の姿勢を問いました。貧困が原因で進学を諦めるこのない社会を目指して、そこからも取り組んでいきました。地域社会の中枢ともいえる会館建設の補助を減らすべきではないことを意見しました。沿った答弁をいたしました。生徒との答弁は見直すべき事が、その答弁で支えたが、たるもの

こしば新聞

令和2年10月19日(月) 27号



初日 峰入

二日目 総務費

三日目 民生費

【お問い合わせ先】
小芝新事務所
〒140-0014
品川区大井5-6-2-101
📞 090-6106-2272
Fax 03-6303-7037
※ご希望の方には新聞をお届け致しますので、ご連絡願います。



偉人の答えは初代首相の伊藤博文。かつて大井に別宅があり、今は西大井駅近くに墓所があります。

四日目以降の質疑は次号掲載します。



新聞のバックナンバーはHPに掲載しています。